

熊本県立大学
国 文 研 究

登尾豊教授御退任記念号

第五十二号
 平成十九年三月

目 次

- | | |
|---|-----------------|
| 登尾豊先生御退任によせて | 鈴木 元 …… 2 |
| 登尾豊教授略歴／研究・著作目録 | …………… 4 |
| ○万葉集の「は」構文 | 半藤 英明 …… 10 |
| ○恋歌の伝承
— 但馬皇女と穂積皇子の恋 — | 竹嶋 麻衣 …… 20 |
| ○副詞「一体」の歴史の変遷 | 稲田 奈緒美 …… 40 |
| ○八文字屋本の板木修訂
— 『逆沢瀉鑑』『魁対盃』を中心に — | 亀井 涼子 …… 51 |
| ○「は」の「対比」の用法に関する考察 | 川俣 沙織 …… 84(19) |
| ○中古日本語におけるアスペクトと
テンスの相関— 主節とノチ節の考察から — | 黒木 邦彦 …… 102(1) |

・受贈雑誌等一覧 ・開講科目及び担当者一覧

熊本県立大学日本語日本文学会

編 集 後 記

表紙に銘打つたように、本学文学部日本語日本文学科で近代文学を講じてこられた登尾豊先生が、本年度をもって退任されます。実はこれまで本誌では、停年を迎えられた方々の特集は組んだことがありません。ゆえに初めての試みです。この点については、日本語日本文学科の教員間でもいろいろ議論しました。しかし最終的には、本学本学科において停年まで尽力された方の功を、なんらかの形で顕彰することは意義のあることであろうと落ち着き、新たに先例をつくるということで、特集号を組みました。

これまでに停年で去られた方々には、その顕彰を怠つたということでお詫びするしかありませんが、大学そのものも法人化という大きな変革を蒙り、日々、それまでに前例のなかった対処が要求されています。そうした大学の体制に倣うという意味でもありませんが、どこかで新しい一步を踏み出さねば先へは進めません。広くご理解を乞う次第です。

「国文研究」 第五十二号

印刷 平成十九年三月三十一日

発行 平成十九年三月三十一日

編集・発行

熊本県立大学日本語日文学会

熊本市月出三丁目一番一〇〇号

印刷 株式会社サンカラー

☎〇九六―三八〇―八一三二